

令和3年度 学校評価報告書1 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

学校名	福岡市立福岡高等学校		学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価(総合)	
学校長	ふりがな	さえき てつろう	志を持ち、自らの目標を達成しようと努力する生徒と、意欲的・建設的に学校運営に参画する教職員の協働により、「熱・意気・力」の校訓を具現化する学校をつくる。 そのために、すべての教職員が元気で生徒が安心して学べ、成長できる学習環境づくりと学力向上による進路実現をめざし、生徒に誇りと自信を持たせる教育活動を実践する。 また、市民からの期待と信頼をさらに高めるために、「福岡改革サードステージ」第2章を推進し、本校の新たな歴史を切り開く学校づくりを進める。	(1) 希望進路の実現と部活動の活性化: 生徒の進路実現を最重点課題とし、ガイダンス機能の充実を図るとともに、各々の進路に応じた学力の定着を図る。部活動の活性化を推進する。(体制、実績、活動内容等) (2) キャリア教育の推進: 総合学科高校として「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」及び「ジュニア・アチーブメントプログラム(ジョブシナリオ・SCP・ミース)」に全教職員で組織的に取り組むとともに、SDGsチャレンジプロジェクト、キャリアデザイン等、キャリア教育の推進を図る。 (3) 授業改善・授業改革の推進と若手教師の育成: 授業改善工夫につながる校内研修会を計画的・組織的に取り組む。また、市立高校の将来を担う若手教師を、ひとりの社会人、ひとりの教師として全教職員で支援する。 (4) 組織的な学校運営と危機管理の徹底: 「すべては生徒のために」を常に意識し、教職員のもっている力を結集して、各部・各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたることに、日常的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。 (5) 人権教育の更なる推進: いじめをはじめとし、あらゆる差別を見抜き、差別をなくしていくための行動ができる生徒を育成するために、教育活動全般において「人権感覚」を高める取組を推進する。また、自分を大切にするとともに他者を大切にす学校風土を生徒教師一丸となって醸成する。	学校自己評価	学校関係者評価
校長本校在任年数	氏名	佐伯 哲郎			2年	
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	かわぐち みよじ	氏名	川口 三代次		

昨年度の成果と課題	【成果】①コロナ禍における工夫(休校措置に備えたリモート授業実施計画および使用マニュアルの完成、webexによる学習指導やHR生徒総会等の学校行事実施)、②新学習指導要領にもなうカリキュラムの完成、③SDGsチャレンジプロジェクトの実施、等。 【課題】①コロナ禍による経験を本年度に生かす(ICT機器活用による授業、HR、学校行事の効果的実践)、②サードステージ第2章の改善・発展、等
-----------	---

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	主体的・対話的で深い学びが得られるような授業改善を図る。また、オンライン学習構築にむけ、ICT機器を積極的に活用し、授業効果の改善を目指す。生徒の学習意欲を高めるとともに、個々の生徒の進路実現を目指す。	ICT機器を用いて、授業の効率化を目指し、深い学びを得られるような授業改善につなげる。 今回の新型コロナウイルスの感染防止に伴う長期に渡る休校措置や出席停止などに対応できるように教育指導体制を構築する。					
生徒指導	新教育課程の編成作業を行うとともに、観点別評価の導入に向け、積極的に取り組む。また、入試改革に伴い、入試の方法を改善していく。	新教育課程の作成と観点別評価の導入を行うために調整と実施実験を行う。 推薦入学者カルテを利用し、今年度も継続して、推薦入学者の面談を行い、入試の改善につなげる。					
進路指導	規範意識の高い生徒を育てる。	自転車通学者に対し、登下校、駐輪、交通マナー指導を定期的に行い、主体的に行動できるようにさせる。 生徒には、その場に応じた挨拶や状況に応じた適切な行動を身につけさせ、学校外でも地域の方々に愛される態度を育成する。					
進路指導	生徒一人一人の進路保障を目指し、適切な指導・助言を行う。	定例の(月1回)「いじめ防止対策委員会」とその事務局会において、未然防止、早期発見、早期解決等にあたる。 生徒がネットによる被害者・加害者にならぬよう、情報端末機器を適切に扱う力を身につけさせ、互いに認め、支えあう人間関係づくりを推進する。					
進路指導	適切なキャリアプランニングを行えるようにする。	生徒の進路保障のための課外や補習を計画的に準備して、円滑に進める。 学年部と進路指導課の連携を強化し、進路指導課からの情報発信を積極的に行う。					
進路指導	適切なキャリアプランニングを行えるようにする。	キャリアプランノートやSDGsワークシートなどを有効に活用し、キャリア教育を一層充実させる。					
学校改革	サードステージ第2章を円滑に進めるとともに、キャリア教育などの特色ある取り組み内容を積極的に発信する。 ・3本の矢の推進、充実・改善を図る。 ・ホームページやSNSを活用し、学校の取り組みを積極的に発信する。	希望進路実現のための取り組みを円滑に進める。また、「福岡サードステージ第2章(3本の矢)」を進める。 「中学校、大学との交流」「部活動集会」「ホームページのリニューアル」等、学校の取組について積極的発信を行う。					
学校改革	主体性の育成を目指すキャリア教育の推進を図る。また、Googleクラスルームを積極的に活用するなどしてICTを積極的に活用する。 ・SDGsチャレンジプロジェクト ・ジュニア・アチーブメントプログラム	SDGsチャレンジプロジェクトを実施し、ICTを積極的に活用しながら体系化を図る。また、職員研修などを行いICTの活用を図る。 ジュニア・アチーブメントプログラムの効果的活用と「SCPの活動充実」「SCP活動積極的発信」に努める。またアジア大会への参加を目指す。					
特活指導	集団活動を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	文化祭・体育祭・予備会などの行事を、生徒会が中心となり、自主的な企画・運営ができるように支援する。 規律ある自主的、主体性ある取り組みができるように指導・支援する。					
特活指導	体育部・文化部の活動の更なる活性化を目指す。	定期的に部活動顧問会議を開き、規律ある一貫した指導ができるように意見交換、情報共有等に努める。 部活動加入率90%以上を目指し、部活動生が学校の真のリーダーとなるように研修を行い育成する。					
保健環境美化	ウイルス感染症の予防を徹底し、心身ともに健康的に学校生活を送ることができる力の育成を目指す。	毎日の健康観察で体調及び出席状況の変化を把握する。配慮が必要な生徒にはいじめ防止対策委員会を中心に支援を行う。 防災避難訓練やAED及びエビベン研修を実施し、安全な学校生活を支援する。					
保健環境美化	身の回りや校内外に対する環境美化意識を持ち、心豊かに学校生活を送ることができるよう支援する。	日々の清掃活動の中で生徒会や福祉委員会を中心にゴミ処理やリサイクルを推進していく。 コロナ禍の中、可能な限りPTAと連携し、花いっぱい運動など環境美化に努める。					
1学年	基本的生活習慣を確立させるとともに、主体的に学習や活動に取り組む姿勢を育てる。また、進路実現のために必要な基礎学力を身につけさせる。 集団への帰属意識を高め、福岡生としてふさわしい態度を身につけさせる。	「産業社会と人間」の授業やLHRの活動を通じて、将来に向けて目標設定をさせ学習意欲を引き出す。 規則正しい学校生活を送らせるとともに、計画的かつ継続的に家庭学習に取り組ませる。 本校の伝統や校風を理解させ、福岡生としての意識を持たせるよう指導する。 集団への帰属意識を高め、学年団の和を育てる。また、安心して学習できる環境づくりに努める。					
2学年	基本的生活習慣の確立とともに、基礎学力の定着を図り、進路実現に向けた基盤を強化する。 学校行事に積極的に参加し、集団への所属意識を高めさせる。	学年の指導の重点に置いている、時間を守ること、5分前行動を励行することの指導を徹底し、文武両道に努める環境を作る。 進路目標を明確化させるとともに、思考力や判断力を伸ばすためにコミュニケーション能力を高める。 各行事において、一人ひとりにリーダーシップと協力のあり方を理解させ、集団への所属意識を高めさせる。 研修旅行の意義を理解させ、積極的に参加する態度を促し、成長した姿や態度を実感させる。					
3学年	進路実現のために適切な進路指導を行う。 最高学年としての自覚を促し、後輩の示範となる言動を積極的に行わせる。	三者面談をはじめ、二者面談を実施し、生徒の実情に適した丁寧な指導をめざす。 高い進路目標を持たせ、その実現のために、自立した態度を育成する。 あいさつ・時間厳守・気配りを中心に、日常の中で随時指導し、自立した態度を身につけさせる。 落ち着いた学校生活を送らせながら、後輩に良い伝統を継承していく価値を理解させる。					
人権教育	本校が抱える人権に関する諸課題に対応する職員研修会を企画し、人権尊重の精神の涵養を目指し、人権が大切にされた環境を創造する取り組みを推進する。 教育相談活動の充実をはかり、実効的な活動を推進する。	人権教育全般の指導内容と方法を検証し、本校の抱える人権に関する諸課題に対応するよう改善を図っていく。 校内職員研修のさらなる充実に努め、全教職員に自主的な研修を促す。 気になる生徒の早期把握と情報共有化を推進し、sc・sswと連携して不登校等の生徒数を減らす。 通級指導教室の運営を通して、全職員に特別支援教育の視点に立った教育活動の推進を図る。					

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どおりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。  
※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。